

生徒指導	多様性の中で自他を認め、他者と自分を尊重できる力を養う。	総合学科の特色である多様な選択を経験することにより、判断力を養うとともに、自己肯定感を高め、他者を尊重する力を身に付けさせる。	4: Fitによる対人適応感の要注意・要確認の人数が20人未満 3: Fitによる対人適応感の要注意・要確認の人数が30人未満 2: Fitによる対人適応感の要注意・要確認の人数が40人未満 1: Fitによる対人適応感の要注意・要確認の人数が40人以上	3	直近12月のデータ 1年 要注意6名 要確認5名 2年 要注意8名 要確認4名 3年 要注意2名 要確認2名 人数は少ないが、継続観察が必要である。特に、要確認が要注意に移行していかないように留意する。	○3年を除き要注意・確認が1割を超えており、決して少なくない数字ではないか。 ○コミュニケーション能力を高める場面を多く設定することが大切。	B
	いじめの早期発見・早期対応に努める。	偶数月（年5回実施）にいじめに関するアンケートや奇数月（年6回）Fit（生活アンケート）、年間3回の個人面談等により、早期発見し素早く対応する。	4: いじめ発生後3日以内に発見、即日対応及び継続指導できた。 3: いじめ発生後1週間以内に発見、即日対応及び継続指導できた。 2: いじめ発生後10日以内に発見、対応及び継続指導した。 1: いじめ発生後、発見までに2週間以上かかった。	4	今年度のいじめ事案は3件（1年1件、2年2件）。すべての事案について、発覚後すぐに会議を行い、対応を検討した。現在、3件ともに経過観察中である。	○いじめは表面化しにくい、他者を思いやる気持ちや他者の立場になって考えることを教えてほしい。 ○いじめの発生はアンケート以前となるため把握後や確認後の表記の方が正しいのでは。	
	ルールや規範の意義を理解し、自主的な規範意識の醸成を図る。	頭髪服装指導を定期的に行い、また学校行事や全校集会等を通じて、規範意識の大切さを考えさせ、ルールを自主的に守ることの必要性を認識させる。	4: 頭髪服装違反者が各年次15名未満 3: 頭髪服装違反者が各年次25名未満 2: 頭髪服装違反者が各年次35名未満 1: 頭髪服装違反者が35名以上の年次あり。	1	1回目 1年14名 2年44名 3年33名 2回目 2年20名 3年35名 コロナ禍のため検査回数が1年1回、2・3年2回にとどまった。相変わらず爪の違反者（延べ人数1年6名・2年・39名・3年34名）が多い。ケガ防止のためにも爪をきちんと切らせたい。	○些細なことでもルールを守ることが社会では基本であることを理解させてほしい。 ○登下校時の指導を定期的に行い、違反者への対応が必要なのは。	
進路指導	主体的に進路実現をめざす態度の育成	各年次と協力して、校内ガイダンス、学校見学、校内説明会を実施し、生徒が積極的に進路について考える態度を養わせる。	生徒アンケートにより、学問理解や職業・職種理解について、 4: 「役に立った」という回答が90%以上であった。 3: 「役に立った」という回答が70%以上であった。 2: 「役に立った」という回答が50%以上であった。 1: 「役に立った」という回答が50割未満であった。	3	「とても役に立った」、「まあまあ役に立った」、「ふつう」、「あまり役に立たなかった」、「役に立たなかった」でアンケートを実施したところ、春の2・3年生合同のガイダンスでは、82%の生徒が「とても役に立った」と回答しており、秋の2年生のガイダンスでは、85%が同様に回答している。1年生の上級学校見学では、70%の生徒が「とても役に立った」と回答している。一過性のものにならないように、事前・事後指導にも力を入れていきたい。	○今自分がやっていることが今後につながることを考えてほしい。 ○生徒の意見も聞きながらブラッシュアップしてほしい。 ○8割の生徒が「とても役立った」と回答はすばらしい。 ○自らが将来を見据えた体験を充実させることが大切。	A
	面接練習を通じた自己理解の深化と進路実現	進路実現に向けて、制度的に面接練習の機会をつくとともに、生徒が自主的に練習に取り組むような声掛けを積極的に行い、生徒が自分の進路や自分自身について深く考えられるように指導する。	4: 面接練習を4回以上行った生徒が80%以上であった。 3: 面接練習を4回以上行った生徒が60%以上であった。 2: 面接練習を4回以上行った生徒が40%以上であった。 1: 面接練習を4回以上行った生徒が40%未満であった。	4	進学受験・就職受験において76%の生徒が面接試験を受けた。その中で81%の生徒が4回以上の面接練習を行った。担任、進路課教員、管理職が連携して行うことができた。来年度以降もより内容を充実したものになりたい。	○面接練習の回数を工夫した効果はどうだったですか。→目的をもち計画的に行い効果を上げている。	
	体力・健康の維持及び、健康についての意識の向上	手洗いやうがい等の生活習慣を身につけるように、授業等で指導する。体育授業等で定期的な体力トレーニングに取り組ませる。	4: 1か月の欠席率が1%未満 3: 1か月の欠席率が2%未満 2: 1か月の欠席率が3%未満 1: 1か月の欠席率が4%以上	2	1か月あたりの欠席率は2.15%だった。新型コロナウイルス感染症の予防のために、手洗いや消毒は習慣化しているように感じる。今後も予防対策を含め、生徒の健康に対する意識を向上させていきたい。	○引き続き感染症対策に取り組まれますようお願いしたい。	
保健・安全指導	衛生的な教育環境への意識を高める。	日常の清掃活動や委員会活動（1か月に一度、生活委員による衛生チェック）等により、校内の環境美化を進め、維持していく。	4: 不衛生な場所が3か所未満 3: 不衛生な場所が5か所未満 2: 不衛生な場所が7か所未満 1: 不衛生な場所が8か所以上	4	グラウンドには、昨年度同様、動物の糞などがあるが、校内には不衛生な場所は見受けられない。環境美化委員がほうきを定期的にきれいに掃除しており、環境美化に努めている。	○自分たちで環境美化に努めていることはすばらしい。 ○委員会活動・係活動を利用して高めることが大切である。 →持ち帰るように指導している。	B
	安全や防災についての意識を高める。	毎月の点検や防災訓練を通じて、学校生活だけではなく、家庭や将来の職場での安全や防災意識をもつ。	4: 月1回の点検で危険、破損箇所がない。 3: 月1回の点検で危険、破損箇所が2か所未満 2: 月1回の点検で危険、破損箇所が3か所未満 1: 月1回の点検で危険、破損箇所が4か所以上	1	月1回の点検を確実にやっている。毎回、危険・破損箇所があれば、すぐに事務室や校務技師に確認してもらい、対応している。年々、破損箇所については、減少している。	○評価を発見後6ヶ月設置等に変更しては。 ○生徒も点検に参加しているのか。 →今後できることは検討したい。	

各 年 次	3年次 ○解決困難な課題に立ち向かう知的耐性の強化 ○主権者として生きる素地の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・問いを立てて吟味する習慣の確立 ・考える喜びを実感する場面の設定 	<p>4：左の観点に関する個人の成長とそれによる集団の力量の高まりが日常の言動から強く感じ取れ、生徒たちの文章の中にも年度当初のそれと比較して飛躍的な内容の深化が認められることを、職員の協議によっても結論づけることができる。</p> <p>3：左の観点に関する個人の成長とそれによる集団の力量の高まりが日常の言動から感じ取れ、生徒たちの文章の中にも年度当初のそれと比較して内容の深化が部分的に認められることを、職員の協議によっても結論づけることができる。</p> <p>2：左の観点に関する個人の成長とそれによる集団の力量の高まりが日常の言動から時に感じ取れ、生徒たちの文章の中にも年度当初のそれと比較して内容の深化が部分的に認められることを、職員の協議によっても結論づけることができる。</p> <p>1：左の観点に関する個人の成長とそれによる集団の力量の高まりが日常の言動から稀に感じ取れ、生徒たちの文章の中にも年度当初のそれと比較して内容の深化が僅かに認められることを、職員の協議によっても結論づけることができる。</p>	4	<p>個人レベルでは、考えることの魅力と醍醐味を実感する生徒の増加が、授業や進路実現のための学習、課題研究発表会に向けた取組の中で、その文章表現と発表内容から窺えた。</p> <p>日常の中で、生徒同士が本質的なテーマに関する意見交換をしつつ、啓発し合う場面を目にする機会が増したことは、集団としての力量も高まってきたことの証左と考える。</p>	○今年度の課題研究発表会はどのテーマは問題を深掘りできておりすばらしい発表であった。 ○生徒の文章力を高めることはとても大切なことである。引き続き指導をお願いしたい。	A
		<ul style="list-style-type: none"> ・多様性を尊重する姿勢と複眼的視点の涵養 ・他者と共に社会の幸福を志向する姿勢の醸成 	<p>4：左の観点に関する個人の成長とそれによる集団の力量の高まりが日常の言動から強く感じ取れ、生徒たちの文章の中にも年度当初のそれと比較して飛躍的な内容の深化が認められることを、職員の協議によっても結論づけることができる。</p> <p>3：左の観点に関する個人の成長とそれによる集団の力量の高まりが日常の言動から感じ取れ、生徒たちの文章の中にも年度当初のそれと比較して内容の深化が部分的に認められることを、職員の協議によっても結論づけることができる。</p> <p>2：左の観点に関する個人の成長とそれによる集団の力量の高まりが日常の言動から時に感じ取れ、生徒たちの文章の中にも年度当初のそれと比較して内容の深化が部分的に認められることを、職員の協議によっても結論づけることができる。</p> <p>1：左の観点に関する個人の成長とそれによる集団の力量の高まりが日常の言動から稀に感じ取れ、生徒たちの文章の中にも年度当初のそれと比較して内容の深化が僅かに認められることを、職員の協議によっても結論づけることができる。</p>	3	<p>知識としての認識は様々な学習の場面を通して高まったが、制限と自粛の日常は、現実の直接的な体験から得る喜びの機会を奪い、卒業後の日々大きな影響を与えるまでの成果を集団として得たと実感するには至らなかった。</p>	○現代の子どもたちに必要な能力を育ててほしい。 ○総合祭のファッションショー等が行うことができよかった。 ○体育祭や総合祭は制限のある中、生徒が創意工夫して楽しめる内容を作り上げていた。	A
	2年次 ○自ら考え、主体的に取り組む姿勢の涵養 ○互いを認め合う気風の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・生活記録表を活用し、自分の生活をマネジメントする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の取組に対する生徒アンケート結果が <p>4：肯定的評価が80%以上 3：肯定的評価が60%以上 2：肯定的評価が40%以上 1：肯定的評価が40%未満</p>	3	<p>毎週、生活記録表を提出させ、担任がコメントを記入することで、生徒に寄り添い、生徒の生活を見守ってきた。生徒の学習習慣の定着と自己マネジメントに役立った。提出しない生徒が固定化した。</p>	○未提出者にも全員回収しコメントを記載してほしい。 ○生徒の変化をつかむためにさまざまな方法で取り組んでほしい。	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の進路について考えるとともに、進路先についての情報を集め、希望進路を見出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望進路が決まっている生徒の割合が、 <p>4：80%以上 3：60%以上 2：40%以上 1：40%未満</p>	3	<p>希望進路が決まっている生徒の割合は生活記録表の活用割合とほぼ一致する。希望進路に向けて、自分の生活をマネジメントしていくという姿勢が育ちつつある。一方で、希望進路が定まらず、何となく毎日を過ごしている生徒もおり、3年次に向けて、進路を見出していくためのさらなるサポートが必要であると考えられる。</p>	○将来の目標をもち、達成のために努力を続けさせてほしい。	B	
1年次 ・基礎学力を向上させ、主体的に学習に取り組む姿勢を身につかせ、自ら考え行動する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・週間計画表を活用し、自分の生活をマネジメントする。 ・スタディサプリを利用して、基礎学力向上に取り組む。 	<p>学校の取組に対する生徒アンケート結果が</p> <p>4：肯定的評価が80%以上 3：肯定的評価が60%以上 2：肯定的評価が40%以上 1：肯定的評価が40%未満</p>	4	<p>週間計画表をやり遂げさせることにより、生徒は自己のマネジメント力をあげていくことができた。担任の側も生徒の状況把握を行なうことができた。スタディサプリに関しては毎週の宿題も朝スタもしっかりと実行させ、基礎学力向上に学年全体で取り組むことに成功した。</p>	○自己管理し、自ら考え、行動する力を身につけてほしい。 ○スタディサプリの活用で「見て、解く」の一つに取り組んでほしい。	A	
特色づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びと成長」のストーリーを、生徒それぞれが描くことができるように、キャリア教育を充実させる。 ・生徒が一人一役を担う特別活動により、主体性を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各取組の目的を明確にし、取り組み間のつながりを意識して立案し、連携して実施する。 ・生徒も教員もICTを活用しながら振り返りを行い、次年度へ引き継ぐ。 	<p>4：全取組の9割以上について明確な目標をもとに立案し、連携して実施・振り返りができた。</p> <p>3：全取組の7割程度について明確な目標をもとに立案し、連携して実施・振り返りができた。</p> <p>2：全取組のおよそ半数について明確な目標をもとに立案し、連携して実施・振り返りができた。</p> <p>1：明確な目標をもとに立案し、連携して実施・振り返りができたのが、全取組の半数未満であった。</p>	3 (3.7)	<p>常に明確な目標を立て計画立案した。それにより、実施者（教員）間で同じゴールイメージを持ちながら取組ができた。かつ年度末になるにしたがって指導観がそろっていくことで取組が効果的になった。</p> <p>実施過程や振り返りにおいてICTを活用した。記録したデータや集約した意見を分析し、次の計画につなげていくサイクルを回すことが課題である。</p>	○教員間や教科間の取組に偏りが無いように取り組んでほしい。 ○将来の人生設計をどのように組み立てるのか、夢と希望をもたせる指導を充実してほしい。	B
		<ul style="list-style-type: none"> ・各活動の目的を明確にして、計画・立案する。 ・「話し合い」を充実させ、生徒それぞれの意見を取り入れた行事を実施する。 ・「振り返り」においては、具体性のある意見や根拠に基づいた意見を求める。 	<p>4：全活動の9割以上について明確な目標をもとに立案し、「話し合い」や「振り返り」が充実したものになった。</p> <p>3：全活動の7割以上について明確な目標をもとに立案し、「話し合い」や「振り返り」が充実したものになった。</p> <p>2：全活動のおよそ半数について明確な目標をもとに立案し、「話し合い」や「振り返り」ができた。</p> <p>1：明確な目標をもとに立案し、「話し合い」や「振り返り」ができた活動が、全活動の半数未満であった。</p>	3 (3.2)	<p>目標を明確にし活動の計画を練り立案した。また、「話し合い」や「振り返り」の充実のための工夫を施した。それに基づいて、自身の役割を認識したり、行動指針を決めて行動したりする生徒も多くなった。一方で、その意図が伝わらない生徒もいた。</p> <p>今後も引き続き筋道を立てた話し合いや合意形成の在り方を生徒と議論し共有していくとともに、具体的かつ適切な振り返りを通じた自己の成長や協働的な姿勢の伸長を促す方策を考え実施する。そして教員のファシリテーション力を高めていくことで、生徒の主体性を高めていくことが次のフェーズの目標である。</p>	○PDCAは考え方の基本となるため、意図の伝わっていない生徒は理解するまで指導してほしい。 ○地域と共に活動する有意義な取組だといえる。是非継続してほしい。	B

学校運営	・保護者・地域の信頼と期待を高め、誇りがもてる学校にする。	・保護者や地域社会に対して積極的に情報発信する。 【目標値】 ホームページアクセス回数 2,000人/1ヶ月当たり ホームページ更新回数 60回(年間)	4: ホームページのアクセス数とホームページの更新回数が目標値に達した 3: ホームページのアクセス数とホームページの更新回数が目標値の8割以上 2: ホームページのアクセス数とホームページの更新回数が目標値の6割以上 1: ホームページのアクセス数とホームページの更新回数が目標値の半分	3	1月末時点 ホームページアクセス回数19,233回(1,923人/月(4~1月)) ホームページ更新回数98 積極的な情報提供により、ホームページ更新が前年比1.5倍となっていることから、アクセス回数の増加に寄与したと伺える。一方で、内容の偏りがあることも否めず、改善策が必要である。	○コロナ禍により中学生体験入学の制限が続くことが予想される。中学生にとってわかりやすいHPづくりを引き続きお願いしたい。 ○何回か見たがとても充実した内容になってきていると感じた。	B
		・学校諸行事の運営が円滑に進み、支障のないように、各年次、各課と綿密に連絡を取り、事前準備を進める。 【諸行事】 始業式、入学式、離任式、PTA総会、終業式、卒業式、入学予定者説明会	各年次、各課に対するアンケートで、 4: 肯定的評価が80%以上 3: 肯定的評価が60%以上 2: 肯定的評価が40%以上 1: 肯定的評価が40%未満	3	アンケートより 肯定的評価68% 昨年に引き続き、大きな社会生活課題がある中で、前年の経験を活かしつつ持続可能な業務改善や行事対応をしたつもりであったが、分掌、学年団、教員の各視点では評価の低いものもある。情報発信や情報共有の方法に、それぞれの立場で改善の余地があり、学校全体で学校運営をしているという個人レベルでの意識の向上が課題である。	○コロナ禍で例年と違い大変だったと感じる。平素からの指導に感謝しているが、学校行事については、定期的な告知はどうか。	
施設・設備	安心・安全な教育環境整備	校舎内外を点検し、危険個所の早期発見、早期対応に努める。	4: 毎月1回点検し、十分な対応ができた。 3: 毎月1回点検し、8割近く対応することができた。 2: 毎月1回点検できたが、対応が5割以下であった。 1: 毎月1回の点検もできず、対応もできなかった。	3	校内巡視や点検を随時行い、安全な教育環境整備に努めている。また、トイレの洋式化については、今年度は特別教室棟に設置したところである。	○修繕対応などは保護者の力も借りて直していきましょう。 ○毎月の安全点検に加え日々の点検を実施しては。→毎日の校内巡視で危険箇所については早急に対応している。	B
			業務内容を精選する中で効率化を図り、在校等時間を減少につなげる。	4: 在校等時間が月45時間以上がない。 3: 在校等時間が月45時間以上が5人以下 2: 在校等時間が月45時間以上が10人以下 1: 在校等時間が月45時間以上が11人以上	1	令和3年度(1月現在)の本校教職員(33人対象)の在校等時間の平均時数は37.5時間であった。月平均45時間以上が11人であった。引き続き、業務改善を図るとともに部活動活動方針の遵守に努めていく。	
業務改善	多忙化解消に向けた業務の効率	業務内容を精選する中で効率化を図り、在校等時間を減少につなげる。	4: 年休取得平均10日以上 3: 年休取得平均7日以上 2: 年休取得平均7日以下 1: 年休取得平均5日以下	4	令和3年の年休取得の平均日数は10日以上であった。引き続き、教職員の心身の健康保持のため休暇等が取得しやすい環境づくりに努めたい。	○テスト週間で取得率を高めては。→すでに実施済	B
			勤務状況(健康で明るい職場づくり)。	福利厚生を進め、休暇等が所得しやすい職場環境をつくる。	4: 年休取得平均10日以上 3: 年休取得平均7日以上 2: 年休取得平均7日以下 1: 年休取得平均5日以下	4	

5 学校評価総括(取組の成果と課題)

○学習指導については、学習者用端末の家庭への持ち帰りにより、ICTを活用した教育をより一層推進することが可能になった。また、コロナウイルス感染症拡大による影響でやむを得ず登校できない生徒に対しても著しい遅れが生じないように、学習指導をすることが可能になった。さらに、スタディサプリとの共用により家庭学習習慣の確立を図ることができた。

生徒指導においては、生活アンケートやいじめアンケートの実施した結果から、どちらのアンケートにおいても特定の生徒が不適応感を示していた。若干名ではあるが、この特定の生徒については今後も注意深く見守る必要がある。学校全体の雰囲気としては、落ち着いてきている。しかし、非常識な行動をとったり 校則が守られなかったりする生徒がいることも事実である。引き続き指導が必要である。

○進路指導において校内ガイダンスや上級学校見学を実施することで、生徒がホームページやパンフレットだけでは知りえなかった情報を得たり、個別の質問もすることができた。また、学びの分野に対する理解も深まったと考えられる。なにより、生徒の進路意識を高める良い機会となった。この経験を一過性のものにならないように継続的な指導が必要である。本校の受検の特徴として、多くの生徒が面接試験を受けている。HR担任・進路課教員・管理職を中心に多くの生徒が、面接やプレゼンテーションの練習を繰り返し行うことができ、本試験でも力が発揮できた。今後は練習の回数だけではなく、練習の質を高められるように、教員の指導技術も高めていきたい。

○特色づくりについて各種学校行事で、実施過程や振り返りにおいてICTを活用した。記録したデータや集約した意見を分析し、次の計画につなげていくサイクルを回すことが課題である。今後も引き続き筋道を立てた話し合いや合意形成の在り方を生徒と議論し共有していくとともに、具体的かつ適切な振り返りを通じた自己の成長や協働的な姿勢の伸長を促す方策を考え実施する。そして教員のファシリテーション力を高めていくことで、生徒の主体性を高めていくことが次のフェーズの目標である。

○学校運営においては、ホームページアクセス数22,045回(1,840人/月(4~3月))ホームページ更新回数104回 積極的な情報提供によりホームページ更新が前年比1.9倍となったことが、ホームページアクセス回数の増加に寄与したといえる。一方、内容の偏りがあることも否めず、改善策が必要である。また、昨年に引き続き、大きな社会生活課題がある中で、前年の経験を活かしつつ持続可能な業務改善や行事対応をしたつもりであったが、分掌、学年団、教員の各視点では評価の低いものもある。情報発信や情報共有の方法に、それぞれの立場で改善の余地があり、学校全体で学校運営をしているという個人レベルでの意識の向上が課題である。

○教員の働き方改革への取組については、昨年度よりノー残業デーの設定や部活動休業日の設定(一部の部活動ではまだ実現できていない)等により平均時間外在校等時間は減少している。しかし、依然として月平均45時間を超える長時間業務者が1割程度存在する現状を踏まえ、教職員のワークライフバランスを意識し、部活動等の運営方針をいかに遵守していくことができるかが課題である。

6 次年度への改善策

○学習者用端末については、今年度から本格活用が始まったばかりであるため、次年度以降も引き続き、新学習指導要領がめざす「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業内におけるより効果的なICT機器の活用方法について研究が必要である。

○生徒が生き生きとした学校生活を進めていくためにも、引き続きいじめアンケートやFitの数値に現れない生徒の悩みや訴えに対し、スクールカウンセラー(SC)や教育相談担当教員とともにさらに教員間の情報共有の充実を図る。

○ガイダンスや説明会などの進路行事をさらに効果的なものにするために、進路研究を進めていくためのワークシートを作成するなどの、手立てを考える必要がある。

○基礎学力の向上については3年間取り組む必要がある。また、スタディサプリの取組については宿題などは真面目に取り組むものの、自分で独自に取り組んでいくという姿勢はまだみられない。そのため、大学入試をめざす生徒にはさらに積極的に取り組ませる必要がある。また、2年次では、生活記録表の記入に積極的でない生徒もいたことから、次年度は毎日の生活が進路目標につながっていることをより意識させるために、目標記入と生活記録が一冊でできる手帳を使用することにした。今後、進路を見出していくためのサポートが必要であると考え、担任を中心に学年団で連携をとりながら、生徒をサポートしていく。

○行事や取組の実施過程や振り返りにおいてICTを引き続き活用していくとともに、次の計画につなげていけるようサイクルを回していく。引き続き筋道を立てた話し合いや合意形成の在り方を生徒と議論し共有していくとともに、本校の育てたい生徒像にあわせて、具体的かつ適切な振り返りを通じた自己の成長や協働的な姿勢の伸長を促す方策を実施していく。そして指導案の共有や共創により、教員の指導観をそろえ、教員のファシリテーション力を高めていくことで、生徒の主体性を高めていきたい。

○保護者や地域社会へ対する積極的な情報発信、また、定期的なHP更新のため、校内の発信者を増やす方法を検討中である。マニュアルを作成し安心・安全なHPづくりを心掛けたい。また、行事運営については、学校全体で運営しているという個人レベルでの意識向上が最大の課題である。分掌間連携に留めることなく、その都度、明確な情報共有が図れるよう、連絡・報告・相談の三原則を徹底していきたい。また、コロナ禍における対応が前例とならないよう、精度の高い記録を残したい。

○働き方改革に向けて、教員のワークライフバランスを考慮し持続可能な学校運営を進めていく中で、業務内容のスクラップを図ることに加え課題でもある部活動活動方針に基づいた適切な運営を積極的に推進していく。